

串間温泉いこいの里

〒888-0008 串間市大字本城987
TEL 0987-75-2000 FAX 0987-75-2280
営業時間：午前10時～午後10時
定休日：毎月第3水曜日

「蟹々三昧」好評につき期間延長！

- 【カニ食べ放題プラン】
- ◎期間＝4月29日（木・祝日）まで毎日開催（完全予約制・申し込みは前日まで）
 - ◎内容＝ボイル・焼き・しゃぶしゃぶサラダ・ご飯・味噌汁・フルーツ付
 - ◎料金
 - ・大人（中学生以上）
男性 3,500円 女性 2,900円
 - ・小学生 2,000円 ※ 幼児は無料
 - ◎利用時間＝70分
 - ◎特典＝生ビール1杯98円でご提供



第2回わくわく温泉市

◎期日＝5月4日・5日（2日間）
昨年大好評の「わくわく温泉市」がグレードアップ！ 歌謡ショー、おもちゃ病院、豪華景品が当たる抽選会、オークション、フリーマーケットなどを開催。ぜひご来場ください。
当日開催のフリーマーケット出店者を募集。野菜、木工品、鮮魚、植木、古着など何でもOK！ 出店料は1日500円、トラックでの参加も大歓迎。詳しくはいこいの里まで。

いこいの里ニュース

第1回「おひなさま雅まつり」

本城地区「We Love 本城運営委員会」と協力して、地区内10カ所におひなさまと優雅な打ち掛け・白無垢30点ほどを展示。多数の来場者でにぎわいました。好評につき来年第2回の開催決定。



今月の表紙

渡邊龍一・和香さん ご夫妻
WTANABE ryuuichi,kazuka



北方地区・小城久保にお住まいの渡邊龍一さん（33歳）、和香さん（30歳）ご夫妻。今年1月に、東京から和香さんの故郷である串間に移り住みました。串間の環境が気に入って移住したお二人。「子育てに、自分たちが暮らすにも串間はいいところですね。自然を生かした串間だからこそできるようなことを家族で体験してみたいです」と話します。また、和香さんは植物性アロマオイルを使ったマッサージ「アロママッサージ」を自宅で提供するため現在準備中とのことです。

FROM EDITOR'S

強 風で倒れた自分の自転車を起していると、隣の誰かの自転車と一緒にいた10歳の娘が懸命に起していた。ハッと自分のだけ起そうとしたわたし。もしかして何事もそうではなかったか。新年度、思いやるゆとりを持って取り組もう（ス）

都 井岬満喫ウォーキングに参加。すばらしい景色の中を歩くのは気分爽快。ところが翌朝にはひどい筋肉痛に襲われた。「すぐに筋肉痛なんて若い証拠」と笑っていたが、そのまま痛みは4日間も継続。さすがに最後は笑えなかった（カ）

今 年2度目の雪。しばらく暖かい日が続いていただけに驚いた人も多かったのではないだろうか。わが家の柿の木が早くも若葉を出していたがあまりの寒さに全滅。残った蕾が「もうちょっと我慢しよう」と言っているようだった（ウ）

PRESENTS



お便りをくださった方から抽選で、「釜めし」と「豆乳鍋」セットのお食事券を25名様にプレゼント。
応募締切は4月30日（金）当日消印有効です。

串間市役所総合政策課
情報政策係 行

(No.860/2010.4)

お手数ですが50円切手をお貼りください

888-8555

POST CARD

◎ご氏名
フリガナ

年齢 / 歳 性別 / 男・女

◎ペンネームまたはイニシャル

※ 記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所

電話 () -

◎抽選で25名様にプレゼント致します。
串間温泉いこいの里 お食事券

わ たしの実家は、十五夜の有名行事「もぐらもち」が行われる広野地区（串間市大字大平）、地元で「葉師さま」と言われる御堂の近くにある。

「もぐらもち」はわたしが子どものころ「広野に住む、男の子だけ参加できる祭」として大きな誇りであった。ところが近年、広野地区も例にもれず過疎化・少子化が進行。「広野だけ、男の子だけ」では維持充足できなくなり、女の子のみならず、地区外の子どもたちも参加できるようになっている。このため、わたしも毎年十五夜には家族に加え、わたしがリーダーを務める「ボーイスカウト宮崎第6団※」の子ども（スカウトと呼ぶ）やリーダーらを両親の待つ実家に連れ帰り、祭りに参加させてもらっている。

スカウトらは南宮崎駅から日向大東駅までJRに乗車、その足で広野まで移動。御堂近くでテントを張ってキャンプする。ここで祭りで使う自分の「もぐらもち」作りからチャレンジすることになる。わたしは、彼らに作り方を教える前に、「祭りの由来」やら「祭り当日の流れ」さらには「子ども時代の準備作業」を説明する。その時、「わたしはもぐらもちに育ててもらったこと」を必ず話すことにしている。

わたしが低学年のころ、「もぐらもち」準備は広野っ子の誇りであり、「大変な苦痛」でもあった。夏休みは「川で水泳」が一番の遊びだったのに、初日から毎日午後は準備作業だった。各家々から集めたワラをすくって「ワラすば」と「芯ワラ」に分ける。このうち「ワラすば」に苦労した。ワラすばは、祭りの主役、鬼（メン）が履くワラジ（足中）の主

わたしの原点「もぐらもち」

随想◎津曲 睦己

材料となるため大量に必要である。毎日毎日、ひたすら「ワラすぐり」と「すば集め」が続いた。あのころはよく「1人500本」などと、びっくりするようなノルマが課せられた。やっと集め終わると上級生たちが長さや本数をキビシク検査、合格するまで水泳に行けず、悔しい思いをしたことも覚えている。

学年が上がると「芯ワラ」を使って「小縄や大縄ない」に進める。最初は見よう見まねだったが上手くできるようになるに従い、後輩の指導も任せられるようになった。中学生になると全部で7匹登場する鬼（メン）を務めるが、ここでも「長幼の序」先輩、年長者を敬いなさい。先輩は後輩を、年長者は年少者を慈しみながら育てていきなさいという儒教の教えがしっかりと守られていた。

近年、親や年長者に対して、あいさつや「ありがどう」の御礼が言えない、言わない子どもや「これ、くれ！」「それ取って！」などと余りに粗雑な言葉遣いをする子どもが増えてきたように感じている。

わたしは、夏の暑い中での準備が、先輩・後輩関係から言葉使い、我慢強さ、さらには社会性まで、まさに、子どもたちの精神修養の場であったと考え、指導しているスカウトたちにもしっかりと引き継いでいければと願っている。



▲宮崎市西部をエリアとする宮崎第6団には、約30人のスカウトが所属。この日は、「ワラ縄ない」から体験しました。



Profile

つまがりむつみ（54歳）／昭和30年大東地区・広野生まれ。大平小・大東中・志布志高を経て、昭和53年鹿児島大学理学部を卒業後、宮崎県庁に。企画調整課や観光・リゾート課、大阪事務所などに勤務。昨年4月から秘書広報課・広報企画監を務める。

※ボーイスカウトは1907年、英国で始まった青少年育成運動。主な目的は「野外活動を通して、自然を学び友情や協力の精神を育むこと」となっており、宮崎県内には、幼稚園年長から小学生までの男女スカウトが20余りの団に1,500人が所属している。全国では約20万人、たいてい世界では1億人の団と地域で2,800万人が活動している。